社会科公民的分野学習指導案

授業日時：平成 23 年 10 月 15 日（火）
展開学級：３年Ｂ組（32 名）
展開場所：図書室
授 業 者：寺島　雄一

１　単元名　　「国の政治のしくみ」

２　単元について

本単元「国の政治のしくみ」は、学習指導要領の大項目(3)「 現代の民主政治とこれからの社会」の中項目・イ「民主政治と政治参加」に該当する部分である。本単元では、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について理解させるとともに、多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めさせる。さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。

特に、本時にて展開する項目と関連して、「国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる」については、法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていること、そのため司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて理解させることを意味している。その際、抽象的な理解にならないように裁判官、検察官、弁護士などの具体的な働きを通して理解させるなどの工夫が必要である。

また、内容の取扱いにもあるように「裁判員制度についても触れ」ながら、国民の司法参加の意義について考えさせ、国民が刑事裁判に参加することによって裁判の内容に国民の視点、感覚が反映されることになり、司法に対する国民の理解が深まり、その信頼が高まることを期待して裁判員制度が導入されたことに気づかせることが大切である。

本単元は、公民の政治的分野の学習内容において、特に厚みのある部分である。生徒にとっては、学習しがいがある反面、理解できる・できないに差がつく範囲でもある。頭に入れておかなければならない項目については当然、重点的に説明をするが、地理・歴史の学習でつまずきを感じていた生徒が、公民の学習を頑張ろうとしているところで再び苦手意識を植え付けるようなことは避けたい。

「社会科を勉強したおかげで、ニュースがわかるようになった」「世の中で起きていることに関心が持てるようになった」「地理や歴史と関連づけて捉えてみようと思った」などの意見が多くの生徒から聞かれるようになると理想的である。教科書の内容を学ぶ中で、「いい質問ですね」と返してあげられるような、生徒の主体的な質問・発言を引き出していきたい。

３　生徒の実態（省略）

４　単元の目標

（１）　国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、「議会制民主主義」や「衆議院の優越」の意義について考えさせる。

（２）　国会の働きについて知り、それを通じて内閣を統制していることに気づかせる。

（３）　「法律をつくるところ」と「政治を行うところ」が異なることに気づき、また、その２つは非常に密接な関係にあることを理解させる。

（４）　国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる。

（５）　民事裁判と刑事裁判の違いを理解し、また日本の司法制度に対しては様々な課題が指摘されていること、それに対する改革が行われていることを知る。

（６）　立法・行政・司法が互いに抑制と均衡の関係にあることを理解し、それが私たちの人権を守るためであることを再認識する。

５　単元の指導計画（全７時間）

（１）議会制民主主義と国会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

（２）国会のはたらき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

（３）行政と内閣、現代の行政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

（４）法を守る裁判所、裁判の種類と人権・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

（５）司法制度改革と裁判員制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

（６）模擬裁判と裁判員制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間（本時　6／7）

（７）三権の抑制と均衡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

６　本時の指導

（１）目標

- 模擬裁判を通じて、裁判の流れや弁護人・検察官・裁判官の役割、裁判員制度の意義や問題点について考え、その望ましいあり方や自らはどのように行動すべきかを述べることができる。

（思考・判断・表現）

（２）前時の展開

時配	学習内容と活動	指導上の留意点	評価と資料
	○日本の裁判の問題点について考える。 【確認したこと】 ● 刑罰の重さが不適当 ● 裁判の仕組みがわかりにくい ● 法曹人口が少ない…など ○司法制度改革の中で、2009 年に「裁判員制度」	○日本の裁判における問題点とその対策としての「裁判員制度」導入について、資料集を用いて確認する。 ○国民の司法参加によ	○日本の裁判の問題点を資料

	が開始されたことを確認する。 ○前時に学習した刑事裁判における「検察官」や「被告人」の役割を踏まえ、次時に模擬裁判を行うことを確認する。	り、何を目指すこととなったのか意識させる。 ● 裁判の進め方やそ	集の表から読み取り、それに対する改革の中で「裁判員制度」が導入されたことに気づくことができる。
	○「三匹の子ぶた」の事例を扱うにあたり、登場人物となる生徒を決定する。 【生徒の役割】 ● 裁判長・・・・・・・・・・・1名 ● 被告人（子ぶた）・・・・・1名 ● 検察官・・・・・・・・・・・1名 ● 弁護人・・・・・・・・・・・1名 ● 証人（オオカミの母）・・・1名	● の内容に国民の視点や感覚を反映させる ● 裁判に対する国民の理解が深まり、司法がより身近なものとなる。	(資料活用)

（３）本時の展開

時配	学習内容と活動	指導上の留意点	評価と資料
導入 ５ 分	○「三匹の子ぶた」の事例を生徒によるロールプレイングによって確認する。 ○検察官、弁護人、証人（オオカミの母）、被告人（子ぶた）それぞれの主張を聴く。 **裁判員として事件ついて考え、判決を下してみよう！**	○模擬裁判の事例とする事件の概要をつかませる。	●子ぶたとオオカミのイラストを用いる。
展 開 30 分	○子ぶたの行為は「有罪」か「無罪」か。 ロールプレイングを見て、自分はどのように感じたかをワークシートに書き込む。	○現時点で、有罪だと思うか無罪だと思うか記入させる。	●ワークシートの作業① ○有罪か無罪かを判断することができる （思考･判断･表現）
	○弁護人・検察官と子ぶたのやり取りを傍聴して感じたことをワークシートに記入する。 【予想される回答】 ● 「子ブタが湯を沸かした鍋はあまりに大きく不自然。計画的な犯行だ」（殺人罪） ● 「オオカミは子ブタを食べようとしており、自分の身を守ろうとして当然だ」（無罪）	○子ぶたの証言に矛盾したところがないか注意して聴くようにさせる。	●ワークシートの作業② ○判断のポイントなる部分を挙げることができる。 （思考･判断･表現）
	○検察側の論告と弁護人の最終弁論を聞いて、自分なりの判決を下してみる。 【予想される回答】 ● 「煮えたぎる湯の中からオオカミが出られないようにふたをしたのは、防衛の程度を超えている」（過剰防衛）	○オオカミが子ぶたの家に侵入したのは、正当防衛の要件である「急迫不正の侵害」にあたるかどうか。また、子ぶたの行為は、自分の身を守るためにやむを得ないものかどうか考えさせる。	●ワークシートの作業③ ○検察側の論告と弁護人の最終弁論をもとに、有罪か無罪かを判断することができる。 （思考･判断･表現）
	○実際の裁判員裁判においても、裁判官と裁判員による評議・評決が行われることを確認し、班で話し合い、班の判決を下す。 ○班の判決を班長が発表する。	○他の班員の考えをよく聴き、自らも積極的に発言するよう促す。 ○この授業では、判決を下すことが目的ではな	●ワークシートの作業④ ○積極的に評議･評決に参加することができる。

		いことを確認する。	（関心・意欲）
ま と め 17 分	○判決を下してみての感想を発表する。 【予想される回答】 ● 「話し合う中で自分の考えが揺れた」 ● 「互いに根拠を示して議論する経験ができた」 ○実際に判決を下してみて、裁判の際に大切なことはことは何か発表する。 【予想される回答】 ● 公正・中立な立場に立って判断すること ● 事件の概要を正確にとらえること ○裁判員経験者の体験談にふれる。 ○裁判員制度の意義や問題点について考え、意見を述べる。 ○将来、実際に裁判員に選ばれた場合、どのように臨もうと思うか、ワークシートに記入する。	○判決を下したときの率直な気持ちを聞き出す。 ○裁判員を務めることの大変さ、裁判に一般市民が参加することのメリット・デメリットに気づかせる。 ○自分たちが行った模擬裁判と、実際の裁判員裁判の類似点・相違点に気づかせる。 ○授業前に実施したアンケートとの変容を意識させる。	●ワークシートの作業⑤ ●ワークシートの作業⑥ ○裁判員制度の意義について気づき、意見を述べることができる。 （思考･判断･表現） ●最高裁のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞにある動画を見る。 ●ワークシートの作業⑦

（1）評価

- 模擬裁判を通じて、裁判の流れや弁護人・検察官・裁判官の役割、裁判員制度の意義や問題点について考え、その望ましいあり方や自らはどのように行動すべきかを述べることができたか。（思考・判断・表現）
- 事件についてしっかりと判断し、自分の意見を書いたり発表したりすることができたか。（思考・判断・表現）
- 模擬裁判の事例をロールプレイングする際、積極的に参加の意思を示すことができたか。あるいは、事件の概要をしっかりと捉えようと集中して聴くことができたか。（関心・意欲）